

生命科学部

1. 教育研究上の目的

本学部は、多様な生物をミクロからマクロまで統合的に捉えることで、現代社会が直面する問題解決の取組みにつなげる教育研究を行う。また、その過程を通して、汎用的な基礎力と専門的な応用力を磨き、知識・技術・経験をもとに、自ら問題発見と解決方法を見いだすことに挑戦し、倫理観をもって社会に貢献できる人材を養成する。

2. 教育目標

生命科学部は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 多様な生物を原子・分子レベルから生命高次機能まで関連性をもって理解し、汎用的な基礎力と専門的な応用力を有する者
- (2) 問題意識を常に持ち、情報発信や自ら解決方法を見いだすことに挑戦できる者
- (3) 実験・実習や研究室活動を通じて、知識・技術・経験を統合し、現代社会が直面する問題解決に貢献できる者

3. ディプロマ・ポリシー

生命科学部は、分子生物学、化学、バイオインフォマティクスを主たる教育研究の対象とし、農学の基盤となる生命現象の基本原則を分子から微生物・動植物個体までダイナミックなスケールで理解し、研究を通じて論理的思考力を磨き、研究成果の社会実装を通じて持続的な世界の発展に寄与する人材を輩出するため、各学科の教育目標に基づいて設置した授業科目を履修して所定の単位数を修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 生命科学に関する基礎的知識の修得と同時に、各学科の目的とする専門的・先進的な知識や実験技術、そして研究成果を社会へ分かりやすく発信するためのコミュニケーション能力を身につけている。
- (2) 卒業論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、知識の活用力、批判的・論理的思考力、問題解決力、数的処理、文章表現およびプレゼンテーション力などの能力を身につけている。
- (3) 研究室における実験を中心とする諸活動および学会発表のような体験的・実践的活動などに基づき、広い視野、異なる分野への理解や関心、他者への柔軟性、自らの考えを国際的に発信できる英語能力を有し、グローバルに活躍しうる能力を身につけている。
- (4) 先端生命科学に関わる汎用的な基礎力と専門的な応用力を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍しうる能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー

生命科学部は、実験・実習や研究室活動を通じて、汎用的な基礎力と専門的な応用力を育む教育を施し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に各学科の教育課程を編成します。

- (1) 基礎的知識の修得と生命科学に関わる実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当する。また、効果的な学修を行うため、ナンバリングやカリキュラムツリーを用いて学修の順序等を示すなど、各区分内において基礎から応用への段階的な科目配当を行う。
- (2) 「学科教養科目」においては自然科学分野4科目に加え、人文科学分野3科目と社会科学分野3科目も配当し、広い視野の育成を行う。
- (3) 生命科学部各学科の「専門教育科目」においては専門共通科目として3学科の専門科目（15科目）を共通で配当し、生命科学における異なる専門分野への関心や理解の育成と、将来の進路を考える上での助力とする。
- (4) 研究室における少人数単位での実験・実習・演習科目を配当し、より実践性を高め、問題能力の解決につながる能力の養成と、「総合化科目」における4年間の学修の集大成となる「卒業論文」科目にもつなげる。

5. アドミッション・ポリシー

生命科学部は、生命の基本原理の解明、そして人類が直面する「生命」にまつわる諸問題の解決に果敢に挑戦し、研究成果の社会実装を通じて持続的な世界の発展に貢献する人材の養成を目指しています。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。

- (1) 従来の農学に医学・薬学・理学・工学を取り込んだ複合的な生命科学研究に関心を持ち、意欲を持って学修に取り組むことができる。
- (2) 自然科学の共通言語である英語に関心を持ち、読む、書く、聞く、話す能力を高める意欲を有している。
- (3) 社会問題に関心を持ち、社会実装を通じてその問題解決に貢献しようとする意欲を有している。
- (4) 生命の理解に関わる基礎的な学力と論理的思考を有し、国内外の研究者と協働して研究を行うための豊かな